

GC-MS用農薬安定化剤導入装置

～GC-MSから「マトリクス効果」という言葉を不要に～

中部大学 応用生物学部 教授 山本 敦
ジーエルサイエンス株式会社 久野 稔

▶〈関連ページ〉9、10、11ページ

狙い 従来の試料の精製工程では、MSによる機器分析でのマトリクス効果を抑制することはできない。試験溶液に農薬保護剤を導入して分析精度を向上させる手段が一般化されている。本装置は、試験溶液に保護剤溶液を添加するという煩わしい作業なしで同等の効果が期待できる。また、従来の保護剤と異なりメモリー効果がないため、GCカラムやMS部の汚染が少ない。

用途 精度の高い分析が求められる残留農薬分析にあつては、試料の精製工程に時間が割かれている。生鮮品の流通サイクルに適合しない分析法は不要である。本装置をGC-MSに接続するだけで、簡便な前処理工程での試験溶液の高精度分析が可能になり、流通前の農産物検査にも対応できる。

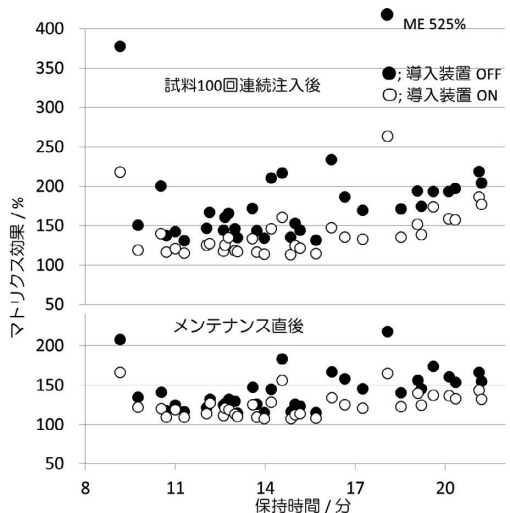
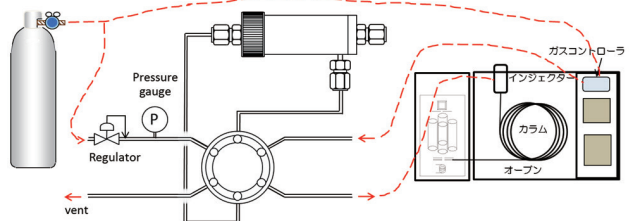
特長

- 本装置をキャリアガスラインに接続するだけでGC-MSによる残留農薬一斉分析におけるマトリクス効果を低減。
- 保護剤の補給は、数ヶ月おきに1mL程度をシリンジで注入するだけ。
- 保護剤の導入を必要に応じて切替えることで、GCカラムやMS部の疲労を低減。

仕様

外 寸／W:120×H:200×D:250mm
重 量／5kg
その他／電源不要

GC-MS用農薬安定化剤導入装置



■お問い合わせ／ジーエルサイエンス株式会社 名古屋営業所 所長 久野 稔
e-mail : kuno@gls.co.jp 電話番号 : 052-931-1761 FAX : 052-931-1814
■特許の有無 : 特願2015-084001